山と花のたより 161号

２０１３年１月２５日　松尾忠

メールアドレス　tadashi6414@smile.ocn.ne.jp
http://yama-to-hana-no-tayori.sakuraweb.com

友の会山歩きクラブで三峰山に

１月１８日（金）土庫病院友の会山歩きクラブの例会登山で宇陀郡御杖（みつえ）村の三峰（みうね）山（１２３５ｍ）に登った。

いつものように、バスは早くから来て待機していてくれ、参加者も定刻には全員揃い、予定通り７時に大和高田市内の老健施設「ふれあい」前を出発。

バスが女寄（みより）トンネルを抜けて桜井市から宇陀市に入ると人家の屋根や田畑を覆う雪が目立ち始め、さらに曽爾村では雪景色となり、国道の両端と中央にうずたかく雪が積まれている。

８時半に登山口のある青少年旅行村に到着、トイレとアイゼン装着を済ませて９時登山開始。登り尾コースの急登を雪を踏みしめながら登る。

三畝峠近くになると雪はますます深く、霧氷も幅と厚みを増して、迫力ある白銀の景色が一行を迎えてくれる。風も強く、雪片を巻き上げて顔面に叩きつけてくる。

山頂で記念写真を撮ったのち、先頭を預るサブリーダー松下さんの提案で「八丁平」は敬遠、避難小屋に戻って昼食とした。

記録担当の大森さんによると「雪中登山を充分味わえて、いい思い出になった」とのこと。ちなみに彼女の万歩計は１８，４９２歩を数えていたそうだ。みなさんよく歩きました。

この山行の参加者は２８名、男１０、女１８。８０歳代２、７０歳代５、６０歳代２０、５０歳代１、平均約６７歳の高齢者たち。

この人達が果敢に山に登り、山の魅力を満喫して喜び、そのための粘り強い努力を日常不断に行われているのを見ると、私自身が嬉しく、何よりも励まされる。みなさんに深く感謝。

二上山にもソウシチョウが

二上山雌岳東側のあずまやでは登山者による「鳥寄せ」が行われている。「野生動物に給餌はダメ」と思いつつも、「善意の」人々が自然に親しみ、喜んでいるのを見ると、黙って見守るしか無い。

二上山で澤木仁さん撮影

一番よく来るのはヤマガラ、シジュウガラ、冬場にはメジロも多い。時にはヒヨドリ、アオジもやってくる。そして今年になって左の写真の鳥が集団でやってくるようになった。

この鳥はスズメくらいの大きさ、カップルの仲が良いので、ソウシチョウ（相思鳥）の名が付けられている。原産地は中国南部から東南アジア。この暖かい地方原産の小鳥が日本で野生化し、その生息域をひろげている。ササ原に棲むなど生活スタイルの似るウグイスやオオルリ等との競合が心配され、「侵略的外来種」とされている。

しかし、植物のタカサゴユリと同じく、人間が利殖目当てに輸入したのがそもそもの原因なのであって、小鳥たちに罪は無い。愛玩用として飼われたのもあるが、美顔化粧品の原料採取もあったらしい。いわゆる「鶯のふん」としてこの鳥の糞を利用したそうだ。そして採算が合わなくなったのか大量に遺棄、放鳥されたのが、日本で野生化したのだ。

数年前十津川村釈迦ケ岳（1799m）の中腹でこの鳥を見かけた。標高は 1300m 前後、夏でも涼しい地域なので、「こんな所にまで」と驚いたが、二上山で大雪の翌日にも餌場にやってきて人間の傍にまで寄ってくるのを見ると、「環境への適応能力」は相当に高いのだろう。二上山にも定着するのだろうか、不安と楽しみの入り混じる複雑な思いで可愛い小鳥たちを見ている。

伊勢辻山は深々とした雪だった

東吉野村伊勢辻山に行って来た。覚悟はしていたが大又からの登山路の二股から上は、雪が大量に残っており、山なれした男たちでも、登りに４時間を要した。

和佐羅の滝をはじめ、いくつもの瀑布は様々な形のツララを煌かせており、淀みでは大小の魚がすばやい動きを見せていた。アマゴだろうか。山頂からは白く輝く台高山脈や大峰の連山が見渡せた。

イカル３羽　友田健太郎さん撮影

冬には冬なりの魅力をもつ山だが、この大雪では集団の日帰り登山は無理だろう。２月２３日のオオヤマレンゲ山の会の例会は中止となった。

以上１６１号